



毎月十五日発行 宗像 社会大像 定価 一年送料共 1000円

神具、装束 株式会社 井筒 福岡市博多区東公園二丁目(三三) 電話福岡(三三)六五九一四四五六

九州各県・山口から三千五百鉢の菊の花 第13回 西日本菊花大会盛大に開催

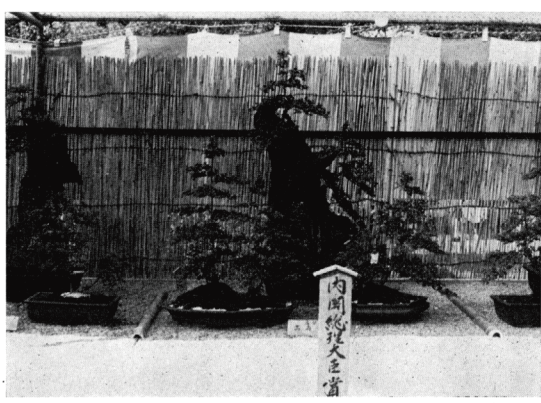
十一月一日〜十九日迄延五十万人の参拝者で賑う

内閣総理大臣賞

盆栽部門

高島雪茂氏 (福岡県遠賀郡)

宗像大社秋の一大神賑行 宗像青年会議所等)は今年 事として、西日本地区はも て三回目の大会を迎え各



宗像大社秋の一大神賑行 宗像青年会議所等)は今年 事として、西日本地区はも て三回目の大会を迎え各

棟が仮設され、福岡県内各 地を始め大分、佐賀、長門 熊本、山口各県から、三五

遠賀各地の運送会社、協力 後援会社より提供の大小の

十一月十三日勅使館に於 いて表彰式が挙行され、伊

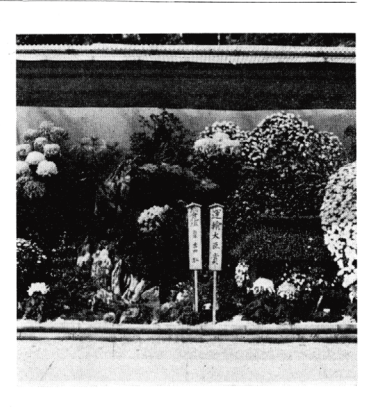
宗像大社秋の一大神賑行 宗像青年会議所等)は今年 事として、西日本地区はも

本大会開催に当り、当天 大会会場となった神門前 広場に陳列ハウス一〇〇余

同日福岡一鉢特別競技 が開催された。この特別競 技は昭和五十五年当大会

宗像大社秋の一大神賑行 宗像青年会議所等)は今年 事として、西日本地区はも

宗像大社秋の一大神賑行 宗像青年会議所等)は今年 事として、西日本地区はも



宗像大社秋の一大神賑行 宗像青年会議所等)は今年 事として、西日本地区はも

宗像大社秋の一大神賑行 宗像青年会議所等)は今年 事として、西日本地区はも

宗像大社歌会詠草

第三八回 宗像大社歌会詠草 毎月一日切 詠草到着順 八幡西 磯谷 緑南 八幡西 磯谷 緑南 八幡西 磯谷 緑南

第十四代家元千宗左(而妙齋)お点前 表千家献茶祭齋行さる

— 西日本各地より千五百余名集う —

秋晴れの去る十月十七日 この献茶祭は、本年二十
(月曜日) 午前十一時から 一回目を迎え、当日は天候
拝殿に於いて、表千家第十 にも恵まれた。家元直々の
四代目家元千宗左宗匠(而 お点前が拝観出来ると
妙齋) お点前による奉納献 拝殿周囲に設けられた
茶祭が、厳肅裡に斎行され 椅子席は良く見える席を取
た。のために午前六時頃から九



州各地をはじめ、山口県方
面からも、師匠・弟子・同
門会員関係者等およそ二
五百名の人々が社頭は一段
と、華やかな雰囲気につ
まれた。
齋行の太鼓の合
図と共に、齋員が齋前庭
より、また勅使館前庭より
の儀式殿と福岡同門会席
左、出光興産(株) 出光昭
介社長、外特別参列者が参
列した。

進し、被舎に於いて修夜を
うけたのち、拝殿所定の座
に着く。厳肅に祭典が斎行
された。
先ず、齋主の祝詞奉読が
あり、続いて家元により献
茶の儀、お点前が披露され
た。
献茶の儀は、濃茶(こい
ちや)と薄茶(うすちや)
の二股が、社紋である「柳
の葉」の紋入りの金と銀の茶
碗に夫々手酌きもさわやか
にたてられた。雅楽の調べ
と共に、神官の手によりう
ややく御神前に供えら
れた。
献茶祭に併せて、出光昭
が儀式殿と福岡同門会席
に於いて夫々行
わ

沖・中両宮

秋季大祭盛大に斎行さる

— 豊漁と豊作に感謝 —

宗像大社沖・中両宮の秋
季大祭は、十月十九、二十
日の二日にわたり盛大に斎
行された。
十九日は、午後より強い
雨となり、奉賛会役員を始
め準備に参集した委員の人
々も、カッパ姿で奉仕され

た。しかし、午後五時の宵
宮祭の頃には、雨も小降り
となり、明日の天候にも
ちるの望みももてる空模様
となった。
明けて二十日、午前六
時、外はまだうす暗い、外
燈の下に人々の影が多い、
大島御嶽山々頂の御嶽神
社拝殿改築 本殿修復工事
も順調に進み、竣功目前で
ある。十月末には大工工事
もこれに祭典を終った。
午後一時半から、境内の
土俵にて、大島小学校生徒
による、子供相撲が奉納さ
れた。男子生徒に負けず、
女子生徒の参加もあり、土
俵の周囲は、家族のやんや
の応援が声高く、境内の木
々にはこぼれ、
二時半より、氏子の人々
による儀法大会が始まっ
た。自慢の「のど」にうっ

校内暴力は因果応報

民主主義は全人の人間に、「自由・
平等・平和」そして「権利」をもたら
した。
それは、長く暗い時代(？)を過ご
して来た「ニッポン」の一般大衆がし
て福音とも言えるものであった。
ところが、あまりに長期間の抑圧の
反動か、それはすべてを無制限
しほめる取らなのであるが、この国の
指導者であった人々も、状況からい
って、これを黙認せざるを得なかつた。
その結果、すべては当人の都合の良
いように解釈されることとなり、「自
由の権利」を持ち出されるだけにとど
まる。「人間」となり得たかどうか、こ

「自由の権利」は同時に、教師が「
倫理・道徳」を教えることも否定し
た。つまり、教師の役割は、単純に
生徒を写れば良いのであって、その
生徒が犯罪者にならうが聖人君子に
なるかが、それは個人の自由である。
そこで口を出すことは「基本的人權
の侵害」である。
また、生徒を殴ることも否定され
た。これら前記の理由によって、
しかし、「子供」にはたして人権が
あるのだからか、「子供」は、こ
れから「人間」になって行く生き物で
あって、「人間」になるために「教育
」が必要なのではないのだろうか。
育一の結果、それ以後の「教育なき
教育」の成果が、それ以後の「世
代々」の人間となり得たかどうか、こ



中津宮撰社 御嶽神社拝殿竣功近し

大島御嶽山々頂の御嶽神
社拝殿改築 本殿修復工事
も順調に進み、竣功目前で
ある。十月末には大工工事
もこれに祭典を終った。
午後一時半から、境内の
土俵にて、大島小学校生徒
による、子供相撲が奉納さ
れた。男子生徒に負けず、
女子生徒の参加もあり、土
俵の周囲は、家族のやんや
の応援が声高く、境内の木
々にはこぼれ、
二時半より、氏子の人々
による儀法大会が始まっ
た。自慢の「のど」にうっ

古代史探訪 織幡神社とその周辺

宗像郡玄海町鐘崎

梵鐘の銘文には、前号③
「沈鐘伝説」の如く、
「昔巨鐘この海底に沈み
海底の鐘を再三引き揚げん
としたが、その度ごとに風
雨が起り、上げることが出
来ず、泉福寺八世の住職昭
空の時八年の歳月を費や
し、海中の鐘に擬せ鋳造
し、寄進する。これにより
、その後風潮の激しい時
、航海が安全にして舟は
岸に着くことが出来た。」
と梵鐘を使う功徳をも書き
記してある。
鐘崎地方は、昔から潜水
漁法の「素潜り」が盛んで
あり、その発生の地として
も良く知られている。瀬戸
内海地方や、この附近の日
本海沿岸地域は有に及ば
ず、北は能登半島の輪島、
船倉島、西は対馬・五島列
島と広範囲に渡って、鐘崎
海人の季節的集団移動の漁
労生活が行なわれていた。
世に知られた「倭の水人」は、三
世紀に作られた「魏志倭人
伝」に「倭の水人」として
記録されており、すでに弥
生時代の頃より行こなわれ
ていたことは実証できる。
季節的漁労の初期の段階に
おいては、「家船」にて漁
労期間中は生活をしていた
ようだが、その後各地に定
住していったようである。
このことは、泉福寺に現存
している江戸時代の過去帳
をみると頭著であり、その
行動範囲も知る事ができ
る。特に石川島輪島や対馬
の曲には海人部落があり、
この鐘崎より海人が漁
季には移動して来たが、そ
の後定住していったことが
知られている。
倭人伝末盧國の条に「倭
の水人、好んで沈没して魚
蛤を捕え、文身を以てて大



らんになっていた。多くの
日本人が「ニッポン人」になつてし
まったこと理由の一つがここにもあ
る。現在、その「無責任教育」の第二
の世代である。殴られて「痛み」
を知るといふ体験を持たなかつた世
代が、大学で「闘争」という名のもと
に、教授を苦しめて上げて殴つて来た。
「教授者は尊敬されるべきでない」と
教育された者ならはるべきである。
それで生徒に向つて偉そうな顔がで
けがないではないか。
「日本」の古い言葉にある。「因果
応報」、「自業自得」である。現代の
「校内暴力」は、「校内暴力」の
先達、先輩なのである。
ジェフリー・キーリング著
戸矢 学監修
「くたばれ、ニッポン人」より

菊花香る錦秋の御社頭 各種神賑行事盛大に行われる

宗像支部創立三十周年記念 奉納剣道大会

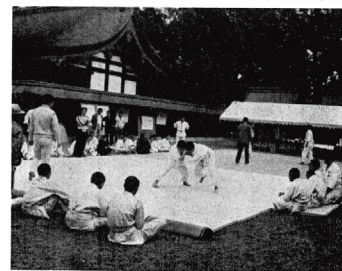


去る十一月三日、午前九時より奉納剣道大会が、当大社本殿横境内で開催された。

本年は、福岡県剣道連盟宗像支部(花田新太郎支部長)有段者八百余名・少年少女一千余名、創立三十周年を迎えて、記念大会として、先ず記念式典、続いて多彩な奉納剣道実技披露(二刀木剣道形・居合・鎖鎌・なぎなたの形等)があり、小・中・高校生の学年別個人戦、抜刀手権試合、一般部の紅白対抗試合が行われた。終了後、当大社清明殿に於いて、記念祝賀会が開催された。

- | | |
|--------|---------------|
| 小学三年の部 | 一位 古賀 達男(安海) |
| | 二位 船越 英明(安海) |
| | 三位 吉田 正裕(岬) |
| 小学四年の部 | 一位 岩永 徹哉(安海) |
| | 二位 西田 晴信(安海) |
| | 三位 木田 達矢(岬) |
| 小学五年の部 | 一位 吉田 祥一(岬) |
| | 二位 田島 克三(安海) |
| | 三位 田島 隆史(岬) |
| 小学六年の部 | 一位 大川 博之(河東) |
| | 二位 立石 芳子(安長館) |
| | 三位 田中 省三(東郷) |
| 中学生の部 | 一位 富奥 靖広(安海) |
| 小学生の部 | 一位 小田 卓(自由ヶ丘) |
| | 二位 早川 衛(安海) |
| | 三位 山内 幸一(日の里) |
| | 四位 花田幸太郎(日の里) |
| 高校生の部 | 一位 林 賢二(東海第一) |
| | 二位 小沢 優(宗像) |
| | 三位 時安 正成(光陵) |
| | 四位 谷口 佳昭(光陵) |

去る十一月五日、午後一時より、当大社本殿横境内に於いて、宗像地区中学校新人戦柔道大会が、九校および百名参加の盛大な規模で開催された。各校の出場選手達が道衣片手に続々と会場に集合、早速着替替準備運動で、一汗を流し本大会に臨んでいた。



本大会は、今年十周年を迎え、定刻全員整列、記念式典に引続いて、団体戦・個人戦の試合が開始され、成績は次の通りである。

- | | |
|-----------------|----------------|
| 個人(二年の部) | 優勝 西野 健太(津屋崎中) |
| 準優勝 鈴木 浩二(福間東中) | 三位 井手興一郎(福間東中) |
| 優 藤田 照郎(福岡) | 準優勝 小倉九郎彦(中) |
| 三位 帆足 和春(安海中) | |

第十回 奉納柔道大会

宗像地区中学生新人戦

第三回 西日本菊花大会表彰者名

- | | | | | | |
|---------|-----------|------|-----------|------|-----------|
| 九州農政局長賞 | 八幡西 千々和正信 | 福岡農協 | 福岡市 井口 正夫 | 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ |
| 福岡農協 | 福岡市 井口 正夫 | 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ | 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ |
| 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ | 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ | 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ |
| 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ | 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ | 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ |
| 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ | 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ | 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ |

第十回 宗像大社秋季奉納 吟剣詩舞道大会



秋の十一月三日、午前九時より、宗像大社秋季奉納吟剣詩舞道大会が、奉納大会十周年を記念して、例年にも増して盛大に、清明殿にて開催された。

当日は、熊木に本部のある清香吟社の主催により、清長中板以下二百名の会員が、日頃の鍛錬の成果を披露した。

去る十一月十一日、午前九時より、第十回宗像大社遠宮記念奉納盆展が、本大会は、今年十周年を迎え、定刻全員整列、記念式典に引続いて、団体戦・個人戦の試合が開始され、成績は次の通りである。

去る十一月十一日、午前九時より、第十回宗像大社遠宮記念奉納盆展が、本大会は、今年十周年を迎え、定刻全員整列、記念式典に引続いて、団体戦・個人戦の試合が開始され、成績は次の通りである。

第十一回 宗像大社遠宮記念 奉納盆展開かる

去る十一月十一日、午前九時より、第十回宗像大社遠宮記念奉納盆展が、本大会は、今年十周年を迎え、定刻全員整列、記念式典に引続いて、団体戦・個人戦の試合が開始され、成績は次の通りである。

- | | | | | | |
|---------|-----------|------|-----------|------|-----------|
| 九州農政局長賞 | 八幡西 千々和正信 | 福岡農協 | 福岡市 井口 正夫 | 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ |
| 福岡農協 | 福岡市 井口 正夫 | 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ | 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ |
| 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ | 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ | 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ |
| 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ | 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ | 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ |
| 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ | 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ | 福岡農協 | 福岡市 寺島トミエ |

